「無戸籍児 解消を」

家族と司法 多様性を求めて 下

再婚禁止期間短縮も期待

「どんな状況で生まれても子供は平等」。京都市の柴田ゆかりさん（44）は、婚外子の相続格差を違憲とした4日の最高裁決定に意を強くした。次男（9）は5年前まで「無戸籍児」だった。

借金が原因で前夫と別居。話し合って離婚届を託した後、現夫との子を妊娠した。しかし、前夫は離婚届を放置していた。その後、離婚は成立したものの、「離婚後300日以内に生まれた子は前夫の子と推定する」とした民法772条で、生まれてくる子は前夫の子とされてしまう。出生届は出せなかった。

「この子は存在しないの子なの？　私に何かあったら誰が守るの？」。2008年4月、仲間と「無戸籍児家族の会」をつくり、国に「300日規定」の是正を申し入れた。最高裁は同年6月、妊娠時に前婚の破綻が明らかな場合は、前夫の関与なしに調停で現夫の子と認められると周知。やっと戸籍を得た。

鳩山邦夫法相（右端、当時）に「300日規定」の是正を求める「無戸籍児家族の会」のメンバーら。いまだ法改正には至っていない＝2008年5月、塩入正夫撮影

だが、民法の規定自体は残り、今も同じ境遇の母親から悩みを聞く。「もう犠牲になる子供を出さないで」と柴田さんは訴える。

◇　◇

岡山県総社市の20代女性は、暴力を振るう前夫と別居し、1年以上の裁判を経て離婚した。離婚成立前に知り合った現夫との婚姻届はなかなか出せなかった。民法が女性の再婚禁止期間を6カ月と定めているためだ。

「幸せを早く形にしたかった。暴力に耐えた被害者が法律にも苦しめられないといけないの？」。再婚禁止期間の規定は違憲だとして11年に提訴した。1、2審は敗訴したが、代理人の作花知志弁護士は「全員一致で相続格差を違憲とした最高裁が審理するのは追い風」と上告審に期待する。

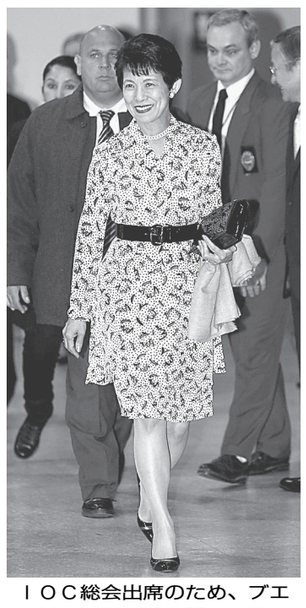
◇　◇

戦前の家制度の尾を引きずってきた民法。法制審議会は1996年、婚外子の相続格差の撤廃▽選択的夫婦別姓の導入▽女性の再婚禁止期間の短縮――などの改正を答申したが、実現していない。結婚や家族の形は多様化し、国民の意識も時代とともに変わる。家族を巡る法律も見直しを迫られている。【石川淳一】

かなうか 東京五輪

久子さまIOC総会出席

海外関係者「得票増に」



IOC総会出席のため、ブエノスアイレスに到着した高円宮妃久子さま＝4日、共同

【ブエノスアイレス竹内良和、小坂大】大詰めを迎えた2020年夏季五輪の招致レースで、7日の国際オリンピック委員会（IOC）総会に出席する高円宮妃久子さまの存在が注目されている。海外の関係者は「プリンセス」の登場が東京にプラスに働くと予想。東京電力福島第1原発の汚染水問題で守勢に立つ東京の招致団も期待感をあらわにしている。「久子さまの出席は東日本大震災支援のお礼のためで、招致活動ではない」という日本政府の見解は、現地でかすんでいる。

（3面に質問なるほどドリ）

「効果は限定的」指摘も

久子さまは英国留学の経験があり、語学が堪能。日本サッカー協会の名誉総裁を務めるなどスポーツ界との関わりも深い。4日にブエノスアイレス入りしてからは市内でIOC委員と面会を重ねており、7日の総会では東京の持ち時間の冒頭3分程度を使って震災支援への謝辞を述べる予定だ。

五輪の開催都市を投票で決めるIOC委員の中には王族もおり、他国の王族や皇室にも親しみや敬意を持っているとされる。欧米のIOC委員の一人は、久子さまの登壇が東京の得票を伸ばす可能性があるとみる。「東京はロビー活動でも彼らなりによくやっているし、プリンセスも来る。あとは個人的なつながりをどれだけ増やせるかだ」

IOCの内部事情に詳しい海外メディアのベテラン記者も「皇族の出席は望ましい」と受け止める。ただライバルのマドリードもフェリペ皇太子をプレゼンターに起用する予定で「IOC委員に訴えかける効果は、それほど劇的ではないのでは」との見方を示す。

東京の関係者の間では、汚染水問題のマイナスムードを久子さまのスピーチで変えたいとの期待が高まる。猪瀬直樹都知事は「宮内庁に随分働きかけてきた。結果として、高円宮妃の本番での登場という良い形を作れた。思いの丈を述べていただきたい」と話し、都幹部の一人も「日本の皇室は人数が少なく、総会出席はインパクトがある。こちらが思う以上に海外のIOC委員へのアピール力があるのでは」と語る。

久子さまのブエノスアイレス訪問は8月に発表されたが、当初はIOC総会には参加しないとされていた。「皇室の政治活動を制限している憲法に反するのでは」との指摘があり、宮内庁の風岡典之長官は今月2日の記者会見で「天皇、皇后両陛下もご案じになっていらっしゃるのではないか」「前例とほしない」などと言及。一方、4日に現地入りした下村博文・文部科学相は「平和的な祭典の五輪で、オールジャパン体制の中での自然な形のご協力。スポーツ利用という言い方はあるかもしれないが、政治の問題では全然ない」と述べた。

竹田理事長

「東京は安全」「250キロ離れている」福島反発「差別的だ」

記者会見で福島の原発についての質問を聞く竹田恒和東京招致委員会理事長＝ブエノスアイレスで4日、梅村直承撮影

2020年夏季五輪開催を目指す東京招致委員会の竹田恒和理事長が、ブエノスアイレスで4日開いた記者会見で東京電力福島第1原発事故について「東京は水、食物、空気についても非常に安全なレベル。全く懸念はない」「福島とは250キロ離れている」と述べた。福島県民からは「東京が安全ならいいのか」「差別的だ」と反発の声が出ている。

「『東京は安全』と強調するのは『福島の現状はひどい』と認めるということ。ならば、なぜ2年半もの間、ひどい福島を放置してきたのか。ばかにしている」

福島市から東京都練馬区に自主避難している主婦、二瓶和子さん（37）は憤る。

会社員の夫は福島に残り、幼い娘2人を抱え生活を続けている。安倍晋三首相は五輪招致の訴えに臨むが、二瓶さんは汚染水問題を挙げ「解決には時間がかかる。先にやることがあるのではないか」と批判する。

福島県川内村から同県田村市に避難している吉岡清さん（70）は「東京で（五輪を）やってほしいという思いはある」としながらも「県外に避難した際、福島というだけで差別的な発言を受けたときと同じような思いがする。原発の電気は東京では」との指摘があり、宮内庁の風岡典之長官は今月2日の記者会見で「天皇、皇后両陛下もご案じになっていらっしゃるのではないか」「前例とほしない」などと言及。一方、4日に現地入りした下村博文・文部科学相は「平和的な祭典の五輪で、オールジャパン体制の中での自然な形のご協力。スポーツ利用という言い方はあるかもしれないが、政治の問題では全然ない」と述べた。

予防接種で支障171人

子宮頸がん 文科省が中高生調査

子宮頸がんワクチンの接種後に痛みを訴える声が出されている問題で、予防接種後に症状を訴え学校や部活動を欠席するなどした中高生が、2012年度に171人いたことが、文部科学省の6日までの調査で分かった。学校の調査結果がまとまるのは初めて。

子宮頸がんワクチンをめぐっては、副作用の訴えが相次ぎ、厚生労働省の検討部会が6月に接種勧奨を一時中止しているが、11～16歳の女子は定期接種の対象のままとされている。文科省は同月、全国の国公私立の中学、高校、特別支援学校計約1万6700校（女子生徒数約340万人）に質問状を送り、全校から回答を得た。

調査結果によると、ワクチンを接種した生徒で、体や頭の痛みなどの症状を訴えて12年度中に計30日以上欠席した女子生徒は51人。体育の授業や部活動を計30日以上休んだのが21人。欠席が30日未満の場合や、通学はしているものの症状を訴えた例などが99人だった。現在も欠席が続くなど「学校生活の改善なし」とされたのは69人。57人が回復し、43人が回復途中だった。

本人や家族がワクチン接種との関係を疑って学校に既に伝えている例が主な対象で、新たな聞き取り調査の実施は求めなかったという。

慈恵論文撤回で ノ社が「おわび」

バルサルタン試験

降圧剤バルサルタン（商品名ディオバン）の臨床試験疑惑で、英医学誌ランセットが東京慈恵会医大の論文を撤回（取り消し）したことを受け、販売元のノバルティスファーマは6日、「本論文を引用してプロモーション（販売促進）を行ってきたことを心よりおわびします」とするコメントを同社ホームページで公表した。

また慈恵医大も同日、「事実を真摯に受け止め、透明性・公正性・中立性の高い臨床研究の実現ならびに信頼回復に努めたい」とのコメントを発表した。【八田浩輔】

季語刻々 今 昔

坪内稔典

戸口まで星下りてゐる星月夜　鷹羽狩行

句集「十七恩」（角川書店）から引いた。1930年生まれのこの俳人は、「妻と寝て銀漢の尾に父母います」「みちのくの星入り氷柱われに呉れよ」などの句によって登場した。銀漢は天の川。つまり、狩行は一貫してロマンチックな星の句を作ってきた。「枝折らば星のこぼれむ枯木星」も「十七恩」にある句。今夜、晴れれば星月夜である。

囲碁名人戦七番勝負

第1局（5、6日）

○山下敬吾名人（172手・白番中押し）●井山裕太本因坊＝山下1勝

2013・9・7

「オリンピックの前にやることがあるんでねえか。ここは時間が止まったままだ……」と、ため息をついた。

■別の強盗致傷容疑で少年書類送検

広島県警などは6日、広島県呉市の山中で少女（16）が殺害された事件で、強盗致死などの非行内容で広島家裁に送致された鳥取県米子市の少年（16）を、別事件の強盗致傷容疑で広島地検に書類送検した。送検容疑は、4月14～15日、瀬戸大平被告（21）＝強盗致死罪などで起訴＝らと共謀し、自宅などで米子市の無職少年（16）に殴る蹴るの暴行を加え約3週間のけがをさせ、6万5000円を奪ったとされる。「間違いありません」と容疑を認めているという。また広島地検は6日、強盗殺人などの非行内容で広島家裁に送致された6人の少年審判に、検察官が立ち会うことを明らかにした。

■利根川水系の取水制限を一時解除

国土交通省関東地方整備局（さいたま市）や流域の6都県などでつくる利根川水系渇水対策連絡協議会は、流域全体で降雨が続いたことなどを受け、7月24日から実施していた10％の取水制限を、6日午後5時から一時的に解除した。

協議会は「貯水量が抜本的に改善したわけではない」としており、今後の雨の状況によっては再び取水制限を検討する可能性もあるという。

関東地方整備局によると、利根川水系のダム8カ所の総貯水量は6日午前0時現在、1億7285万立方㍍で、平均貯水率は50％。降雨により、利根川流域の水量が増えたことや、9月は7、8月に比べて、農業用水をはじめ全般的に水の需要が減ることなどから、今回の措置を決めたという。利根川水系のダムは、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京の6都県に水を供給している。

毎日希望奨学金

東日本大震災で保護者を亡くした遺児を応援する「毎日希望奨学金」を受け付けています。

■郵便振替　毎日新聞東京社会事業団（00120・0・76498）。「奨学金」と明記してください。

■現金書留　〒100―8051　東京都千代田区一ツ橋1の1の1、毎日新聞東京社会事業団「奨学金」係。

■銀行振り込み　三菱東京UFJ銀行東京営業部（普通0422292）。口座名は毎日新聞東京社会事業団希望奨学金。振込手数料は金融機関でご確認ください。

※銀行振り込みの場合、領収書や紙面掲載をご希望の方は、その旨を明記して住所、氏名、電話番号を書き、振込用紙の写しを添えて郵送かファクス（03・3213・6744）で東京社会事業団へお送りください。匿名希望の方は明記してください。問い合わせは同事業団（03・3213・2674）。

気温と湿度（6日）

（最高は15時まで、最低は前日21時から9時まで。天気・湿度は15時現在）

	最高（平年）	最低（平年）	湿度	
東京	28.3（29.3）	25.1（23.0）	66	曇
札幌	21.5（24.2）	16.1（16.4）	63	曇
青森	25.6（25.7）	17.5（17.3）	55	曇
盛岡	26.0（25.6）	15.5（17.0）	49	晴
仙台	26.1（26.1）	18.5（19.6）	62	晴
秋田	25.3（26.5）	16.4（18.8）	56	曇
山形	27.1（27.5）	19.4（18.4）	57	晴
福島	26.9（27.8）	20.5（19.8）	63	曇
前橋	25.7（28.9）	22.5（20.9）	84	曇
宇都宮	24.7（28.5）	22.3（20.5）	93	雨
水戸	24.5（27.7）	22.7（20.3）	78	曇
銚子	26.2（27.0）	23.6（22.3）	76	曇
熊谷	25.1（29.6）	22.5（21.4）	90	曇
横浜	28.4（28.8）	24.7（22.5）	73	晴
長野	26.1（28.1）	18.4（19.0）	63	晴
新潟	26.0（28.1）	22.2（21.2）	65	晴
甲府	33.3（30.4）	23.7（21.1）	49	晴
静岡	31.2（29.6）	23.5（22.5）	74	晴
名古屋	31.9（30.8）	21.1（22.6）	45	晴
大阪	30.3（31.4）	21.3（23.6）	55	晴
広島	28.5（30.8）	20.4（22.7）	60	曇
福岡	31.1（29.9）	20.8（23.0）	62	曇
鹿児島	31.0（31.4）	22.1（24.2）	57	曇
那覇	30.4（30.9）	23.8（26.1）	61	快晴

主催／和歌山県、明治大学　共催／内閣府
後援／消防庁、国土交通省、気象庁、毎日新聞社
協賛／ヤマサ醤油株式会社

参加者募集中

和歌山県が生んだ津波防災の先覚者

濱口梧陵シンポジウム

これからの津波防災 ～ 稲むらの火 ～ の教えから学ぶ

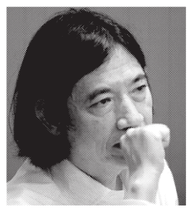
平成23年3月の東日本大震災において、わが国は津波により甚大な被害を受け、改めて津波への備えの重要性が認識されました。濱口梧陵は、安政の南海地震のおり、広村（現：和歌山県広川町）の住民を津波から守り、さらにその後私費を投じて堤防を築き、昭和21年の南海道大地震では村を津波から守りました。この業績を讃え、津波防災を啓発するため、濱口梧陵を顕彰するシンポジウムを行います。

基調講演　「濱口梧陵の意志を風化させない減災対策」
関西大学社会安全学部社会安全研究センター長・教授
人と防災未来センター長　河田惠昭 氏

パネルディスカッション　出演者

※基調講演にも出演　河田惠昭 氏

俳優　石丸 謙二郎 氏



作家　大下 英治 氏

明治大学特任教授
日本災害復興学会会長　中林 一樹

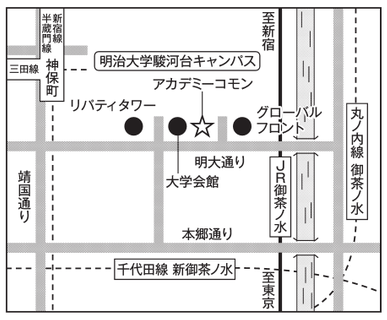
和歌山県知事　仁坂 吉伸

同日開催

明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン1階
「関連パネル展示」開催!
【展示期間：平成25年10月25日（金）～11月7日（木）】
シンポジウム当日もご覧頂けます。

日時　平成25年10月26日（土）
開場12:30／開演13:30（～16:30）

会場　明治大学 駿河台キャンパス
アカデミーコモン3階 アカデミーホール



〈アクセス〉
〒101-8301
東京都千代田区神田駿河台1-1
・JR「御茶ノ水」徒歩3分
・丸の内線「御茶ノ水」徒歩3分
・千代田線「新御茶ノ水」徒歩5分
・新宿線・半蔵門線・三田線「神保町」徒歩8分

定員　先着800名（事前予約制）
参加無料・全席自由

お申し込み方法
電話またはホームページからお申込みください。
氏名・電話番号・住所をお知らせください。
「明治大学リバティアカデミー事務局」
TEL.03-3296-4423 受付時間／平日10:30～19:00（土曜は15:30まで）
https://academy.meiji.jp　※定員に達し次第締切ます。
申し込みをされた方は、当日直接会場にお越し下さい。
※お申し込みいただいた際の内容は本シンポジウム以外の目的では使用しません。
●お問い合わせ先
和歌山県文化国際課　TEL.073-441-2050（平日9:00～17:45 土日祝休）